

西南学院大学

図書館報

シェイクスピア展特集号
(第26号)昭和39年11月5日発行
発行所 福岡市西新町798 電0031西南学院大学図書館
発行人 山下和夫Mr. WILLIAM
SHAKESPEARES
COMEDIES,
HISTORIES, &
TRAGEDIES.

Published according to the True Originall Copies.

LONDON
Printed by Isaac Iaggard, and Ed. Blount. 1613.

ん、世界各地で生誕400年を祝う行事が行なわれた。本図書館でも何か記念の催おしをしたいと思つたが、シェイクスピアが生まれた4月末は何かと忙しい時であったので、読書の秋を選び、大学祭と時を同じくして、このたびささやかなシェイクスピア展を催おすこととした。委員としては英文学科から田中、八木両助教授、館からは館長と司書長がこれに当つた。

昭和8年5月に丸善主催で「沙翁文献展覧会」が行なわれたが、その目録には外国書1522点が記載されている。本年5月昭和女子大学図書館で展示された「日本におけるシェイクスピア文献」には400点以上の文献があげられている。こういうものに較べると、本図書館のシェイクスピア文献は極めて貧弱である。最近のものは和洋書、レコードなど多少整ってきたが、まだまだ言うに足

シェイクスピア展開催

にあたって

シェイクスピアが生まれたのは1564年であるから、本年はちょうど400年目にあたる。生地ストラットフォード・オン・エイボンは、もちろ

りない。特に日本におけるシェイクスピア文献は古いところは皆無に等しい。それでも、この「シェイクスピア展」を催おすことによって、生誕400年を祝い、かつ、学内に myriad-minded と言われた世界の大神人をするとしても紹介することができれば幸いである。

この「シェイクスピア展」の開催が4月でなくて、11月になったため、ひとつの面白いコレクションを展示することができるようになった。前に述べた通り、本年4月前後には記念の行事が行なわれたが、新聞雑誌で記念号を出したり、記念の論文記事を記載するものがかかりあった。日本で発行されたものには別項(2頁)のようなものがある。外国のものはこれよりずっと多い。これらの新聞雑誌を見ていると、ベン・ジョンソンが、シェイクスピアの死後間もなく、彼を頌えて

He was not of an age, but for all time.

と言つたことが、まことに当をえておつたと思わざるをえない。

なお、この展示会を催おすにあたって、いろいろな援助を戴いたアメリカ文化センター、および諸先生に心から御礼を申し上げます。

■ シェイクスピア年表

- 1564 William Shakespeare, Stratford-on-Avon
に生まる (4月26日受洗)
- 1582 Anne Hathaway との結婚許可せらる
(11月27日)
- 1583 長女 Susanna 受洗 (5月26日)
- 1585 雙生児 Hamnet及びJudith 受洗 (2月2日)
- 1587 この頃ロンドンに出ず
- 1592 Henry VI、Richard III、Titus Andronicus 上演
- 1593 Venus and Adonis 上演
- 1597 Stratford の邸宅 New Place を購入す
- 1599 Romeo and Juliet 出版
- 1603 Hamlet 出版
- 1608 King Lear 出版

- 1610 この年又は翌年 Stratford-on-Avon
に隠退す
- 1616 Shakespeare 遺言状を整えて署名す
(3月25日) Shakespeare 死去 (4月23日)
- 1623 First Folio 出版

とき 39.11.12 ~ 14

Shakespeare Exhibition

シェイクスピア展

ところ 図書館3階閲覧室

シェイクスピア 生誕400年

— シェイクスピア展出品 —

記念特集号 雑誌目録

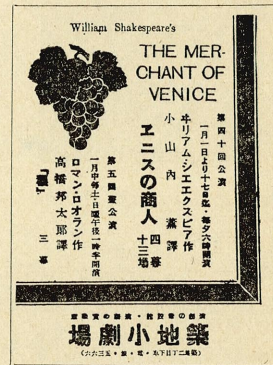
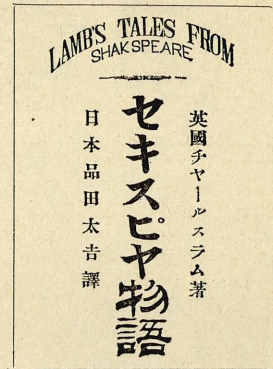
(A. B. C順)

<国内雑誌>

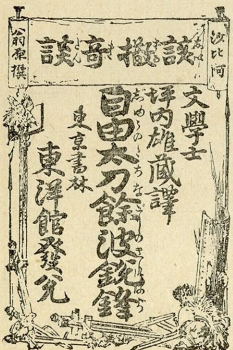
誌名	巻号	内容	学 鑑	39年1~10月号	シェイクスピア研究(1)~(10)
読 書 人	39年4月20日号	特集号			
英語研究	39年5月号	〃			
英語教育	39年4月号	〃			
英語青年	39年5月号	〃	本の手帖	39年4月号	特集号
〃	39年8月号	ヨーロッパ文学 におけるシェイクスピア	図 書	39年4月号	特集号

<外国雑誌>

College English	Apr. '64	Special Number
Esquire	Mar. '64	"The lost weekend of Willielmum Shaxpere", by Richard Joseph
Harper's	May '64	"Much Ado About Shakespeare: three summer festivals," by Julius Novick
Holiday	June '64	"Shakespeare Exposed," by John Glashan
Library Journal	Jan. 15, '64	"The Bard in Papar," by R. L. Hiller
Life	May 4, '64	Special Number
Listener	Apr. 23, '64	Special Number
Look	Apr. 7, '64	
National Geographic	May '64	"The Britain that Shakespeare knew," by L. B. Wright
NEA Journal	Feb. '64	"Shakespeare Year," by W. Houlton
New York Times	Apr. 23, '64	
New York Times Magazine	Mar. 15, '64	"10 favorites from Shakespeare"
〃	Apr. 19, '64	"Ode to an Impudent Upstart"
New Yorker	May 23, '64	"Letter from Stratford"
New Statesman	Apr. 27, '64	"Shakespeare's Quatercentenary"
Newsweek	Apr. 23, '64	"Much Ado About Will"
Saturday Review	Mar. 14, '64	"Brush up your Shakespeare"
〃	Apr. 4, '64	"How Shakespeare spent the day"
Scala	No. 8, '64	Special Number
Der Spiegel	Apr. 22, '64	Special Number
The Times	Apr. 23, '64	
Times Literary Supplement	Apr. 23, '64	Special Number
U.S. News	Apr. 27, '64	"A Shakespeare Boom-a 400-year success story": interview with Dr. Louis B. Wright
Wilson Library Bulletin	Apr. '64	"Another Part of the Forest" "The Folger Shakespeare Library" "Problems in Shakespearian Scholarship"



写真上 セキスピヤ物語
品田太吉訳 明19刊
下 エニスの商人公演プログ
ラム 築地小劇場 大15



「該撒奇談」のこと

昭和16年から17年にかけて二人の人が「ジュリアス・シーザー」を訳した。河島敬蔵と坪内雄蔵である。逍遙の分は「該撒奇談・自由太刀余波鋭峰」という古

坂本重武

めかしい題で出版された。「しいざあきたん・じゆうのたちなごりのきれあじ」と読む。奥付を見ると明治16年10月3日版權免許、同年5月出版と (次頁上段へ)

(前頁下段より)

書いてあるが、その年には出版できなかったものと見え、「同」と「年」との間の空白に「拾七」と後から押し込める。はじめと終りの題言、それに序文は漢文で書いてある。人名は舞妻多須(ぶるうたす)とか菴兎尼(あんとい) 軻志亜須(かしやす)といった風に見える。ただ、シーザーだけはケイナス・ジュリヤス獅威差(しいぎる)と片仮名と漢字と一緒に用いている。シーザーの表記法は一定していなかったと見えて、表紙には該撒、序文には塞撒、そして本文では獅威差といろいろに書き現わしてある。ついでながら、シェークスピアも表紙には沙士比阿、扉には沙比阿翁、そして依田百川の書いた序文には英人塞古斯比とある。そしてシェークスピアのことをこの書の作者の文章は独絶であり、その理義は深遠であり、しかし、文字の雄健なこと三国演義に勝ることはあっても、劣るところは無いと書いてある。本文中には渡辺省亭の描いた挿画(二頁大)が10枚入れてあって、当時として随分新鮮な様式であったらしい。

これは全訳とは言われているが、訳者自身「附言」の

なかで言っているように「院本体」に訳したもので、科白(せりふ)よりか、地の文の方が多量である。試みに一番最後の文章を引用すると、

イザ凱陣と指令の声、四方に渡る徳風は、枝をならさず四海波、静けく治まる羅馬国、其帝政の基礎(いしずえ)を、開きし君の身の内に、備はる智略未長く、朝日時代と竹帛にほまれを残し、名を残し、憾を残す自由の太刀、折れて治まる時勢こそ輕佻浮薄の国人の万古の誠となりけり。

と言った名調子であるが、やがて読める人も次第に少なくなっていくことであろう。もう一か所アントニの有名な演説の最後の部分を引用すると、

アア方々ゆるしめされ、かくいう自分の魂は、なき獅威差の身にそひてこの柩の内にやいりけん、得恩びがたき愁傷に、前後錯乱いたしたれば魂おのれに歸るまで、暫らく御猶予下されい。

と訳しにくいところを巧みに訳してある。この訳が出てから、ちょうど80年になる。日本の「ジュリアス・シーザー」も思えば長い歴史を持っている。

(図書館長)

人生にはいろんな楽しみがあるだろうが、旅と読書もその一つであろう。学生諸君の身上調査書の趣味娯楽の欄にもこの二つを書いている人が多いが、私もそのどちらも好きだ。

旅行と言えるほどの旅行をしたわけではないが、旅に出ることは楽しい。汽車の旅、船の旅、歩く旅、何れにせよ、日頃住み馴れている家と土地とを離れて、新しい風景と見知らぬ人々に接することは、私の心に子供のような知的好奇心を呼びおこしてくれる。だから、私は旅に出たときは文字をあまり見ない。景色を見たり、人々の方言に耳を傾けたり、文字に表わされる以前の、人々の生まの暮しと思いに注意を向ける方がよほど楽しいからだ。

お金と時間の余裕がたっぷりあって、さあこれからというような旅は到底望めないから、用事で出かけたついでに途中を楽しんで来るのが精々であるが、いくら無理をする位の旅の方がかえって思い出も多く、学ぶ所も大きいのではなからうか。この春、椎原から板屋峠を越えて南畑に降りたが、途中道に迷ったりして、そういう日帰りの旅も結構楽しかった。第一に山の空気がおいしいし、美しい景色を見たら気が晴れるし、長生きするにはこれが最上の薬かも知れぬと思っ

た。最近では学生諸君も随分あちこち旅行しているようだから、その紀行文を西南新聞にでものせてくれたら、さぞ面白いだろうと思う。

書物を読む楽しみも、旅の楽しみとよく似ているのではなからうか。人の書いたものを読むことは、自分の居場所から離れて一步を踏み出すようなものだ。人の思想の歩みについて歩み出せば、次々に新しい視野が開けてくる。そして、気に入る好い景色の場所に出たら、ゆっくり立ち止まって觀賞することも出来る。新しい書物に目を通すことは、始めての場所に出かけるようなものだ。

し、古い書物を再読することは曾遊の地を再び訪れるようなもので、そのどちらにもそれぞれの面白さがある。

野山を歩き廻っていたらノイローゼにならなくてすむように、私たちが固定観念にとらわれないためにはやはり、人の書いたものを読む必要があるようだ。或いは身体をいつまでも若く柔軟にしておくためには時々体操をしたらよいように、私たちの心が老いがないためにはやはり、精神の体操をする必要があるのではなからうか。

旅と読書の効用はそういう所にあると思う。

(文学部教授)

旅と読書

猪城博之

— 雑誌購入希望調査の結果 —

10月20日(火)と21日(水)の2日間にわたって、入館の学生を対象に実施した雑誌購入希望調査の結果は次のとおりである。

配布枚数 494
回収枚数 294 } 回収率 60%

希望する雑誌を多い順にあげると

旅 140 (うち女子学生43)
太陽 107 (28)
文学界 102 (29)
リーダーズ・ダイジェスト 102 (32)

映画評論 55 (9)
キネマ旬報 55 (5)
文芸 43 (6)

以下略

となっている。ただし、これらは一般教養関係のみで、学科目に関係のある雑誌は今回の調査の対象から除かれた。図書館では、この結果に基づいて、旅、太陽、文学界の3種を購入することに決定した。また、リーダーズ・ダイジェストについては、なお検討中であるが、もし購入する場合は、英文版にしたい考えである。

■ ニュース NEWS ニュース NEWS

<図書館委員会>

- 39.5.1 図書費増加分の配分、その他
- 39.6.26 新聞保存、複写料金の改訂、その他
- 39.9.11 私大助成申請補助費の取扱い、その他

<図書館会議出席>

- 39.5.16~5.17 私立大学図書館協会総会研究会、
於立教大学、坂本館長出席。
- 39.9.1~9.3 全国図書館大会、於青森市、
坂本館長出席
- 39.6.2~6.5 大学図書館職員講習会、
於大阪大学、伊藤司書出席

<読書週間行事>

読書週間 (39.10.27~11.9) の行事として岩波文庫100冊の本を図書館入口に展示した。

告知板

- 卒論特別貸出実施中 卒業年次の学生には、卒論作成のための特別貸出を行なっています。3冊1か月間です。貸出願の用紙を係員からもらって、ゼミの指導教授の証明を受けて来て下さい。
- 卒論製本代金について 卒業論文は、製本の上図書館に保存されます。そこで、卒業論文の提出に際しては、製本代金を経理課に納入し、その領収書を添えて教務課に論文を提出して下さい。製本代金は、
商学部学生 1人 150円
英文学科学生 1人 50円
となっています。
- 波多野文庫の増加 本学の元教授で蔵書家として著名であった故波多野培根先生の記念文庫(2,095冊)に、蔵書の残部(203冊)が御子息より追加寄贈されました。近くそのリストを作成配布の予定です。

■ 国立学校図書専門職員採用試験のこと

さる9月15日に昭和39年度の国立学校図書専門職員採用試験の公告が人事院から行なわれた。この試験は、国立学校(主として国立大学)の図書館の専門職員を採用するためのもので、国立学校の図書館に勤務し、将来の幹部となるためには、この試験に合格することが必要となった。受験資格や、試験の程度ならびに採用後の待遇などはほとんど全て国家公務員の上級職の試験と同等となっている。

○試験内容は次の通り。

(イ) 第1次試験(試験日 39.12.5~12.6)

1) 甲種試験

教養試験(択一式)、専門試験第1部(図書館学、択一式)、専門試験第2部(英語、択一式)、専門試験第3部(図書館学、記述式)、および総合試験(記述式)

2) 乙種試験

甲種試験のうち、総合試験(記述式)がないだけであとは同じ。

(ロ) 第2次試験

第1次試験の合格者に対し、口述試験および身体検査を行なう。

○受験手続および受付期間

受験申込用紙は人事院福岡地方事務所て交付される。受付期間は、昭和39年10月10日(土)から11月10日(火)まで。

なお詳細は、就職課または図書館まで。

■ 編集後記

シェイクスピア展の特集号としましたが、展示出品目録はこの誌面には収容できませんので、記念号雑誌のリストのみを掲載し、他は全てプリントにして配布します。なお、前号まで8回にわたって連載してきた学院図書館回顧録は暫らく休止し、機会を改めて大学図書館回顧録として続けたいと思っています。(Y)